

第2学年 美術科 学習指導案

奈良教育大学附附属中学校 教諭 長友 紀子

1. 単元名 ナラノヤマノカミノキ ―吉野杉でカミサマをつくろう―

2. 単元の目標

- ・吉野杉の素材感・手触り・色などの特徴から奈良の山々や自然の美しさや良さを理解し、発想したイメージを表現することができる。
- ・吉野杉を素材とするカミサマのイメージを豊かに思い描き発想を深めることができる
- ・イメージを具体化して作り出す活動を楽しみ、自分や友達の作品を通して奈良の山々や自然の持つ価値を感じとることができる。

3. 単元について

(1) 教材観

奈良県吉野郡は、奈良県の面積の約60%を占め、古くから林業の盛んな地域である。吉野で育てられた吉野杉は、現在は主に酒樽などに加工されており、本題材で素材とした吉野杉は、それらの酒樽の蓋をつくる際に出た端材である。触ると柔らかく、香りが良く、心材の赤みや年輪の色など、触覚・嗅覚・視覚を通して木材の良さを感じとることができる。吉野という身近な地域で育てられた木を作品の素材とすることで、作品へ向き合う時の生徒の気持ちが、親密なものになるのではないかと考えた。奈良の山々は、そこに暮らす人々の手によって豊かな森林を育ててきたという歴史を持っている。奈良の人々が大切に育ててきた吉野の山々について知り、その山々にいる「カミサマ」とはどんな形をしているのだろうか、と考えることを通して、自分たちの身近にある自然の美しさや価値に気づくことができるのではないかと考えた。また、総合学習で行っている、奈良めぐりの時期と重ねて題材を実施することで、奈良という地域を多面的に捉え、考えることができる教材となっている。

(2) 生徒観

第2学年の生徒は、落ち着いて学習に取り組むことのできる集団である。相手の話を聞く力があり、対話的な雰囲気を持っている。自分の意見や考えを述べる際は、安心のできる環境を整えたとのびのびと発言できる。主題を与えられれば深く考える力はあるが、表現したいという能動性についてはやや弱さがあると感じるため、考えることの面白さ、制作の楽しさや友だちと作品について対話することの良さを実感することで、生徒の能動性を育てたい。奈良の自然から作品の材料をとり、イメージを膨らませることに重点をおいた題材設定、作品を通じた対話の導入をすることで、生徒が自ら考え、つくり出す力をつけることができると考えた。

(3) 指導観

「カミサマ」をつくる、というテーマは、生徒にとってはこれまで考えたことのない内容だと思われる。まず、テーマをやや新奇性のあるものにするすることで、生徒の意識を刺激するようにした。本題材で扱う

「カミサマ」は、宗教的な意味ではなく、自然を概念として捉えるものもある。目に見えない概念的なものを形にするということは、作品の完成に対して正解となる形がないということで、生徒は自分にとっての「カミサマ」がどんな形なのかを自分の価値観によって考えることになる。

次に、素材として吉野杉を提示し、吉野杉が育てられてきた奈良の山々について考える場面を設定する。吉野林業について説明を加えたり、奈良の山々の風景を想像させる場面設定を行ったりして、奈良の自然の美しさや良さを想起させることで、奈良の山々にいる「カミサマ」のイメージを膨らませる手がかりとする。

素材を教室の中央に置き、のこぎりやホットボンドなどの道具類を使えるスペースを作って、制作する間中、生徒らが互いの様子を自然に目にできるような教室環境を整えて、自然な対話が生まれやすい状況を作った。作品の完成後、鑑賞の場面では自分の作った「カミサマ」について、互いに紹介しながら鑑賞を行うようにした。作品の造形の意図を言語化することで、自分の思いや考えを振り返ることができるようにした。

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性：奈良の自然が自分たちの身近にあり、奈良の自然を育んできた人々の思いがあることを知る。

公平性：今ある自然のを大切さを感じ、自分たちの次の世代につなげていくことを意識する。

多様性：作品を通して、同じ素材・テーマから多様な見方・感じ方があることを知る。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

つながりを尊重する態度：自然とのつながり、人とのつながりを意識する

コミュニケーションを行う力：自分の作品の意図を相手に伝え、相手の話を聞いて、作者の思いについて考える。

進んで参加する態度：テーマに対して自分の発想を膨らませ、表現することを楽しむ。

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正：今ある奈良の自然の美しさや良さを自分たちの次の世代につなぐという意識を持つ。

幸福感に敏感になる。幸福感を重視する：奈良の自然の中にある「カミサマ」を考えることで、そこに暮らす自分を含む人々を大切に思う気持ちを持つ

自然環境、生態系の保全を重視する。(生物多様性の重視)：奈良の自然の美しさや良さを大切に思う気持ちを持つ

・達成が期待されるSDGs

目標 15・目標 16・目標 11

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①材料の吉野杉を育んだ奈良の山々の自然の美しさについて理解する</p> <p>②テーマからイメージを膨らませ、素材の加工の仕方や組み合わせ方などの表現方法を工夫することができる</p>	<p>①テーマから、自らの表現の意図について考えを深め、構想を練ることができる</p> <p>②作品を相互鑑賞することで、自らの意図を言語化し、見方・感じ方を深めることができる</p>	<p>①制作することを楽しみ、自分のイメージを形にしようと取り組むことができる</p> <p>②制作と鑑賞の活動を通して、奈良の自然の持つ美しさや良さを感じることができる</p>

5. 単元の指導計画（全〇時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<p>○テーマを知る</p> <p>○今持っている「カミサマ」のイメージを書き出す</p> <p>○材料に触れ、触り心地や香り、色などを観察する。吉野杉に触れて気づいたこと、感じたことを書き出す</p> <p>○奈良の山々について知り、身近な自然の良さについて考える</p>	<p>・テーマについて説明する</p> <p>・生徒が既存で持っている「カミサマ」のイメージを書き出すことで、作品に対する意識を向けさせる</p> <p>・吉野杉の木材に触れることで感覚を刺激しイメージを膨らませやすくする</p> <p>・吉野林業や奈良の山々について説明を加え、身近な地域の良さを感じることができるようにする</p>	<p>△ア①</p> <p>・ワークシート</p> <p>・木材</p>
2	<p>○アイデアスケッチを描く</p> <p>・木材に触れながら考える</p> <p>・カミサマの性質について考える</p> <p>・奈良の山々の自然について意識しながらイメージを膨らませる</p>	<p>・奈良の山々の自然からイメージを膨らませるように促す</p> <p>・どんなカミサマをつくるか、性質から形を考えるように促す</p> <p>・材料を豊富に用意し、イメージにあった色や質感の材を選べるようにする</p>	<p>△イ①</p> <p>・ワークシート</p>

<p>3 ～ 6</p>	<p>○制作する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材を観察し、作りたいイメージにあった材料を選ぶ ・360度から作品を見て、一つ一つのパーツの形や組み合わせ方を試行錯誤する。 ・アイデアスケッチに書き加えながら作業を進める ・作りたい形に合わせて道具を使うようにする（ノコギリ、電動ノコギリ、金やすり、紙やすり、ホットボンド、木工ボンド） 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料を豊富に用意する ・道具類の置き場所と作業スペースの動線を考えて、作業しながら自然に対話が生まれるように状態を保つ ・木材を触って作業する中で、発想が膨らみ変化した場合は、アイデアスケッチに適宜書き加えをしたり、変更したりしてもいいことを伝える ・一定の方向からだけでなく、360度から見て形を決定していくように促す 	<p>△ア② △ウ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノコギリ、電動ノコギリ、金やすり、紙やすり、ホットボンド、木工ボンド
<p>7</p>	<p>○鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作った「カミサマ」について語れるように準備する ・ポスター発表形式で作品を友だちに紹介する <p>○鑑賞シートに振り返りを記入する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作った「カミサマ」について、作品にこめた思いや造形の意図について、他者に伝わるように言語化させる ・クラスを3つのグループに分ける。発表グループの生徒は発表を2回行う。聞くグループの生徒は異なる生徒の発表を聞くようにさせる。 ・友だちの作品発表を聞いて感じたことや考えたことを記入する ・自分の制作を振り返る ・奈良の山々の自然について改めて考えるように促す 	<p>△イ② △ウ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート